



地域資源循環プラットフォーム

輸入に頼る飼料から、地域でつくる飼料へ。

課題 酪農家の経営と環境負荷



酪農家の減少

酪農が低収入で次世代の担い手が少ない



輸入飼料の高騰

酪農家の負担増
乾燥した飼料のため給餌の際に大量の水が必要



飼料の長距離輸送

9割以上を輸入に頼り、輸送時のGHG排出量が課題

*GHG: 温室効果ガスの総称



牛から出るメタン

牛の「ゲップ」によるメタン排出が課題（GHGのうち、メタンはCO2の約28倍に相当）

コア技術 | これまでの取り組み

技術を事業へつなぎ、2028年の事業化を目指す

2024年



未利用資源の飼料化研究

2025年



餌の配合・牛への実証

2026年



AIによる栄養成分水分の最適化

2027年（予定）



AIデータセンターの排熱利用技術

実証例（添付資料）：乳脂肪率 4.01% → 4.14% / 肉牛の出荷価格 +61,500円/頭 ※ 限られた試験での結果で、一般的な効果を保証するものではありません。

実現方法

サーキュラーエコノミー飼料 × AI × 排熱利用で、畜産農家の所得向上を目指す

大澤屋の事業

- ◆ 未利用食品残渣等の回収
- ◆ AIデータセンターの大量の排熱を未利用資源の乾燥エネルギーへ転換
- ◆ AIによる栄養成分・含水率・味のコントロール
- ◆ 地産地消、個別対応の飼料生産と販売



農家への直接的効果

- ✓ おいしい餌で、牛の健康な育成を支える
- ✓ 安全性を確かめ、良質な牛乳・牛肉へ
- ✓ 品質と環境への配慮を、ブランド価値に
- ✓ 商品価値の向上と飼料費の抑制を目指す

農家への還元

- メタン・飼料輸送の削減効果を検証し、Jクレジット化へ
- 認証後の収益還元で、所得向上と持続可能な酪農経営へ

温室効果ガス削減予測

41.3%

輸入飼料の置換 3.2 / メタン抑制 9.3
新規配合 20.0 / 排熱利用 8.8 (%)

連携先募集：食品企業・畜産農家・熱利用/AI関連企業・環境価値の購入を検討する企業

株式会社大澤屋 | 026-219-1225 | mail@ohsawaya.co.jp | https://ohsawaya.co.jp/

※ 図は構想イメージ。AIの活用は研究中、排熱利用・ブランド化・Jクレジット化は計画段階。Jクレジットは適用方法論の確認と登録・審査・認証が必要です。

※ 41.3%は従来資料の4項目を単純合計した予測値。効果の重複と算定条件の検証が必要で、実測値やJクレジット認証量ではありません。